

初級者から上級者まで必携

ドイツ語

文法
大 全

田中 雅敏 / バウアー・ラース

初級者から上級者まで必携

ドイツ語 文法 大全

田中 雅敏 / バウアー・ラース

はじめに

本書は初級者から上級者までこれ一冊で必携となることを目指しました。

本書は全5章(I章～V章)で構成されています。I章は「総説」です。「総説」はドイツ語の〈取り扱い説明書〉ともいうべきもので、ドイツ語文法の特徴的な部分や、ほかにも品詞の説明、文法用語など、ドイツ語文法を紐解く上で必要な基礎的知識をまとめています。「総説」でドイツ語文法の輪郭を概観し、II章以降の「各論」で、個別の文法について見ていく(「森を見て、木を見る」)、という構成にしています。II章は「名詞編」です。ドイツ語は名詞(冠詞・形容詞)の格変化が豊かな言語です。動詞の人称変化(主語に応じた語尾変化)も豊かですが、動詞の人称変化の場合、主語が明示されることと重複しています。その点、名詞は、文のどこにあってそれが主語(や目的語)とわかる必要があり、その形(変化)がたいへん重要です。本書では、まずドイツ語の「名詞」まわりの文法をまとめています。III章は「動詞編」です。動詞には活用(人称変化、時制を区別するための語形変化など)があります。動詞、助動詞、準助動詞についての活用等をまとめています。IV章は「文編」です。動詞に目的語となる名詞句を添えて動詞句を作り、それが述語となります。そこに主語となる名詞句を添えると文になります。V章は「その他」です。

動詞の配置によって文タイプが区別されることや、動詞句内の語句の順序などは総説に書かれています。さまざまな文法項目において、重要なものはその都度、総説に戻れば書いてある、という仕組みです(必要に応じて「→〇ページ」のように、リファレンス性を高める工夫もしてあります)。本書は文法に特化した便覧となっており、発音や文字については扱っておりません。

初級者向けの工夫

各文法項目で、最初の見開きは初級者向けの内容になっています。それぞれ、キーセンテンスともいうべき端的な例文とともに、大学の初級クラスで教えられる内容に近づけ、簡易な説明を心がけています。ただし、本書はいわゆる文法便覧ですので、項目の配列は一般的な参考書や教科書のように（伝統的な項目順）にはなっておらず、語レベルから句、文レベルに展開し、ドイツ語の文構造を順次性をもって理解していただけるようにしてあります。ドイツ語文法を初めて学ばれる方は、「総説」は後回しにして、まず各課の最初の見開きでドイツ語の個別の文法項目のエッセンスを見ていただき、その後「総説」を見ながら全体像の把握に進んでいただく（「木を見てから森を見る」）のがおすすめです。

なお、初級者向けの見開きページでは、例文の和訳が自然な日本語になっていない場合があります。これは、その単元で扱う文法事項の特徴を可視化するためのもので、和訳を自然な日本語にしまうと、当該の文法事項の特徴が見えなくなることがあるためです。

コラムも多めに設けました。ドイツ語の歴史や発展的な文法事項を扱ったコラム、あるいはドイツ語圏の文化や流行について触れたコラムもあります。

本書の執筆にあたり、大阪公立大学の信國萌さんから言語学者の視点で助言や示唆をたくさんいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。株式会社語研編集部の宮崎喜子さんには企画の段階からたいへんお世話になりました。

みなさんのドイツ語学習の一助となりますよう祈念しております。

2024年吉日

著者一同

目次

はじめに	2
------------	---

I. 総説

ドイツ語文法の基礎	8
-----------------	---

II. 名詞編

1 名詞	名詞の性	26
	名詞の数	32
	名詞の格	42
	冠詞	60
2 形容詞	形容詞	70
	形容詞の比較表現	78
3 代名詞	人称代名詞	88
	所有代名詞	96
	不定代名詞	102
	指示代名詞	112
	再帰代名詞と相互代名詞	122
	疑問代名詞	128
	関係代名詞	136
4 前置詞	前置詞	144

III. 動詞編

5 動詞	不定詞と定動詞	174
	分離動詞と非分離動詞	184

	動詞の3基本形.....	190
	再帰動詞.....	200
6 助動詞	助動詞.....	208
	話法の助動詞.....	216
7 準助動詞	準助動詞.....	228

IV. 文編

8 単文	法.....	238
	時制.....	250
	受動態.....	260
9 複合文	接続詞.....	270
	zu 不定詞.....	278
	関係文.....	286

V. その他

10 その他	疑問文とその答え方.....	292
	数詞.....	296
	分詞.....	306
	機能動詞.....	318
	話法の副詞（心態詞）.....	324
	句読法.....	332
	索引.....	341

【校正協力】 信國 萌
 【イラスト】 高嶋 良枝

コラム一覧

1	副詞的 2 格	59
2	副詞的 4 格	69
3	文法システム	77
4	名詞の性の割り当て規則	87
5	deutsch と dutch	101
6	名前①	103
7	第一次子音推移	111
8	名前②	113
9	若者流行語大賞①	123
10	第二次子音推移	127
11	疑問詞 Fragewörter	129
12	項構造と意味役割	135
13	若者流行語大賞②	137
14	補充法	183
15	問題文	191
16	初対面	201
17	同族目的語	207
18	日本語由来のドイツ語①	209
19	müssen の否定	227
20	日本語由来のドイツ語②	229
21	ドイツ語に見られる部分的能格性	235
22	ß とは何か	259
23	ことわざ Sprichwörter	261
24	Ablaut と Umlaut	269
25	順番を話す	271
26	bitte と danke	279
27	分離話題化	323
28	不在構文	331
29	商品名称	333

I.

総説

品詞や文の種類，時制や名詞の数・人称など，ドイツ語に限らず人間言語を構成する文法概念（文法用語）の説明と，ドイツ語に特徴的な「定動詞の位置」（文のタイプを区別する）と「枠構造」（文の始まりと終わりを明示する）について概説しています。

1. 文 (Satz)

ある人物または事物がある行為をするか、ある状態にあるか、あるいは事柄が発生するという1個の命題を言葉で表現したものを文という。文を構成する要素(語句)を文成分(Satzglieder)という。

2. 文の成分 (Satzglieder)

行為、状態または生起の主体を述べるものは名詞、代名詞、もしくは名詞化した品詞であって、これを文の主語(Subjekt)と呼ぶ。また、その行為、状態あるいはできごとを述べるものは動詞であって、これは文の述語(Prädikat)と呼ばれる。この二者が文の主成分である。

文の述語となっている動詞にはそれだけでは意味が不十分であり、その行為の対象を示す必要があるものがある。この行為の対象となるものを目的語(Object)という。名詞、代名詞、および名詞化された品詞がこれにあたる。動詞が意味の充足のために必要とするもの(必須成分)は補足語(Ergänzung)といい、それが補われなければ意味が完結しない。

さらに述語はその行為なり状態なりの時間、場所、方法、原因、目的などを規定する語を添えることがある。これを添加語(Angabe)という。随意成分(fakultative Satzglieder)ともいう。副詞、前置詞句などがこれにあたる。

また、主語、目的語その他に用いられた名詞はこれを修飾または規定する言葉を伴うことがある。冠詞、名詞、代名詞、形容詞、数詞

などである。副詞や前置詞句も用いられることがある。これは付加語 (Attribut) と呼ばれる成分である。

3. 文の種類 (Satztypen)

文には、文が表現する内容を事実として表すか、または話し手（書き手）がその内容を少なくとも事実であるとして述べるときに用いる「直説法」(Indikativ)、その内容を事実ではない（想像）か、話し手（書き手）がその内容を少なくとも事実であるとは信じていない（伝聞や願望）ときに用いる「接続法」(Konjunktiv)、話し手の命令・禁止を表す「命令法」(Imperativ) の3つのモード（話法）がある。

「接続法」には、第Ⅰ式（間接話法、要求話法）と第Ⅱ式（非現実話法）があり、間接話法、要求話法を第Ⅰ式で表す場合に、その動詞の形が直説法と区別がつかない場合には第Ⅱ式を代用できる反面、非現実話法は必ず第Ⅱ式を用いなければならない（第Ⅰ式での代用はない）。「直説法」と「接続法」には、時制と態の区別がある。

Die Erde kreist um die Sonne. (直説法)

地球は太陽の周りを回っている。

Man glaubte, die Sonne kreise um die Erde. (接続法第Ⅰ式)

人々は太陽が地球の周りを回っていると信じていた。

Wenn ich mehr Zeit hätte! (接続法Ⅱ式)

私にもっと時間があったらなあ！

Seien Sie mutig. (命令法)

勇気を持って。

4. 時制 (Tempus)

行為, 生起または状態の起こる時を表すものであって, 現在 (Präsens), 現在完了 (Perfekt), 過去 (Imperfekt), 過去完了 (Plusquamperfekt), 未来 (Futur) および未来完了 (Futur Perfekt) の 6 時制がある。

Ich komme pünktlich in Berlin an. (現在)

私は時間通りにベルリンに着く。

Ich bin pünktlich in Berlin angekommen. (現在完了)

私は時間通りにベルリンに到着した。

Ich kam pünktlich in Berlin an. (過去)

(同上)

Ich war pünktlich in Berlin angekommen. (過去完了)

(同上)

Ich werde pünktlich in Berlin ankommen. (未来)

私は時間通りにベルリンに到着するだろう。

Ich werde pünktlich in Berlin angekommen sein. (未来完了)

私は時間通りにベルリンに着いているだろう。

5. 態 (Genus verbi)

能動 (Aktiv) と受動 (Passiv) がある。前者は主語の表示する人または物が行為し, 存在することを表し, 後者は主語が表示している人または物が他の行為を受けることを表す態である。

In Österreich spricht man Deutsch. (能動態)

オーストリアでは人々はドイツ語を話している。

In Österreich wird Deutsch gesprochen. (受動態)

オーストリアではドイツ語が話されている。

II.

名詞編

名詞は，文における役割に応じて格変化します。II章では，名詞の格変化にかかわる品詞のうち，動詞（III章）以外のもの（名詞，冠詞，形容詞，代名詞，前置詞）を扱い，語形変化や格の意味・用法などを見ます。

名詞の性

名詞 (**Nomen**) は生物 (1) と無生物 (2) と概念・抽象 (3) を表すことができます。ドイツ語では固有名詞を含め、名詞の頭文字を**必ず大文字**で書きます。

Ein Pferd ist ein Tier. (1)

馬は動物です。

Ich habe ein Auto gekauft. (2)

私は車を買いました。

Lernst du gern Sprachen? (3)

君は言語を学ぶことが好きですか。

ドイツ語の名詞には3つの性 (**Genus**) があります。男性名詞 (**Maskulinum**, 略して mask.), 中性名詞 (**Neutrum**, 略して neutr.) と女性名詞 (**Femininum**, 略して fem.). 性は文法上の決まりになります。無性の物事でもそれぞれ文法上の性があります。名詞の性は定冠詞でわかるので、セットで覚えておくと便利です。

Maskulinum	Neutrum	Femininum
der	das	die

der Baum 木 (mask.)

das Haus 家 (neutr.)

die Tasche カバン (fem.)

文法上の性と自然の性が一致する単語もあります。

der Bruder	兄・弟 (mask.)
die Schwester	姉・妹 (fem.)
der Kater	雄の猫 (mask.)
die Katze	雌の猫・猫 (雄雌関係なく) (fem.)

ただし例外もあります。

das Mädchen	少女 (neutr.)
das Kind	子 (neutr.)

職業や国民を表す単語の場合は、男性を指す言葉に **-in** を付けることで女性を指す単語を作ることが多いです。

der Arzt	医師 (男性) (mask.)
die Ärztin	医師 (女性) (fem.)
der Lehrer	教師 (男性) (mask.)
die Lehrerin	教師 (女性) (fem.)
der Japaner	日本人 (男性) (mask.)
die Japanerin	日本人 (女性) (fem.)

複合語の性は基礎となる単語 (一番右側の単語) の性で決まります。

das Auto + **der Schlüssel** = **der Autoschlüssel**
(車 neutr. + 鍵 mask. = 車のキー mask.)



名詞の性

名詞はすべて文法上の性（grammatisches Geschlecht）を与えられている。自然の性と一致するものもあるが、無生物については自然の性とは一致しようがない。

1. 自然の性と一致するもの

人間の性別、身分その他の関係を表す名詞、人間生活に密接であり（家畜など）性別を明らかにする動物の名称はおよそ自然の性に従って雌雄を表す。

a. 人間

der Mann 男性	—	die Frau 女性
der Vater 父親	—	die Mutter 母親
der Sohn 息子	—	die Tochter 娘
der Bruder 兄弟	—	die Schwester 姉妹

b. 動物

der Ochse 雄牛	—	die Kuh 雌牛
der Hengst 雄馬	—	die Stute 雌馬
der Hahn 雄鶏	—	die Henne 雌鶏
der Eber 雄豚	—	die Sau 雌豚

2. 意味的イメージによる性

その他の多くの動物、植物および無生物の名詞は、文法的に性を与えられている。大きなもの、力強いもの、活動的と感じられるものには男性を、小さなもの、美しいもの、やさしいものには女性を、またそういう性質の感じられないものには中性を付した向きがある。

der Berg 山	der Strom 河	der Blitz 閃光	der Baum 木
die Luft 空気	die See 海	die Hand 手	die Quelle 泉

3. 語形や語意による性

歴史の流れの中で、文法上の性の規定は、形態的、もしくは形式的となり、語形や語意によって性別が与えられるようになった。

a. 男性名詞

1) 動詞の語幹からできた単音節の名詞

der Gruß 挨拶 <grüßen der Kauf 購買 <kaufen
der Krieg 戦争 <kriegen der Schlag 打撃 <schlagen

2) -el, -en, -er, -ing, -ling に終わる名詞

der Himmel 天・空 der Wagen 車両 der Finger 指
der Hering にしん der Liebling 恋人

もちろん、例外もある：

die Achsel 脇 die Angel 釣り竿 die Gabel フォーク
das Kissen クッション das Zeichen 兆候・しるし
die Feder 羽 das Fenster 窓 das Ding 物 など

3) -e に終わる人と動物の名称

der Affe 猿 der Franzose フランス人 (男性)
der Geselle 職人 der Junge 少年 der Löwe ライオン

4) 日時、季節の名称

der Abend 晩 der Morgen 朝 der Sommer 夏
der Tag 昼・日 ただし, die Nacht 夜

5) 天候

der Donner 雷雨 der Regen 雨 der Schnee 雪 der Wind 風

b. 中性名詞

1) -chen, -lein に終わる縮小名詞 (Diminutiv)

das Mädchen 少女 das Märchen メルヘン das Büchlein 小冊子

2) ge- の前綴りと -e の後綴りを持つ集合名詞

das Gebäude 建物 das Gebirge 山脈 das Gemälde 絵画

3) -sel, -sal, -tum, -nis に終わる大部分の名詞

das Rätsel 謎 das Schicksal 運命 das Eigentum 所有物
das Altertum 古代 das Gefängnis 刑務所

ただし、例外も多い：

die Insel 島 die Mühsal 辛苦 der Irrtum 誤謬
der Reichtum 富 die Erlaubnis 許可 die Finsternis 暗黒

4) -ett, -ment, -um に終わる外来語

das Ballett バレエ das Parlament 議会 das Museum 博物館

5) 他の品詞から派生した名詞

das Essen 食事 <動詞 essen das Leben 生命・人生 <動詞 leben
das Blau 青色 <形容詞 blau das Aber 異議 <接続詞 aber

6) 子供、動物の仔、性別を問題としない動物名

das Kind 子 das Kalb 子牛 das Küken ひよこ
das Lamm 子羊 das Ferkel 子豚
das Pferd 馬 (雄雌区別なく) das Rind 牛 (同左)
das Huhn 鶏 (同上) das Schwein 豚 (同上)

7) 鉱物名

das Gold 金 das Silber 銀 das Eisen 鉄 das Uran ウラン
ただし、der Stahl 鋼鉄 die Bronze 青銅

c. 女性名詞

1) -in, -e, -ei, -at, -ut, -ung, -heit, -keit, -schaft, -t(d) に終わる名詞

die Lehrerin 教師 (女性) die Stunde 時間 die Bäckerei パン屋
die Türkei トルコ die Heimat 故郷 die Armut 貧困
die Hoffnung 希望 die Schönheit 美しさ die Krankheit 病気
die Pünktlichkeit 定刻 die Freundschaft 友情

die Zukunft 未来

die Kunst 芸術

die Tugend 徳

2) -ie, -ik, -ion, -tät, -ur などに終わる外来語

die Melodie 旋律

die Grammatik 文法

die Information 情報

die Universität 大学

die Kultur 文化

d. 異なった意味で異なった性を持つ同音語

der Band 巻 — das Band リボン

der Bauer 農家 — das Bauer 鳥かご

der Bund 同盟 — das Bund 束

der Gehalt 内容 — das Gehalt 給与

der See 湖 — die See 海 など

4. 複合語の性

なお、合成語・複合語の性は、基礎語 (Grundwort) のものが適用される。

der Radweg 自転車道 < das Rad + der Weg

das Geburtstagskind 誕生日の人 < die Geburt + der Tag + das Kind

die Flugmaschine 飛行機 < der Flug + die Maschine

III.

動詞編

動詞は述語（どうする・どうなる）の核をなすものです。III章では動詞の種類を細分化（動詞・助動詞・準助動詞）し、それぞれの働きや語形（人称変化や基本形の変化）を見ます（文レベルの文法はIV章）。

不定詞と定動詞

不定詞 (**Infinitiv**) は原形とも呼ばれ、変化させていない形の動詞を言います。例えば辞書などで動詞を調べたときに出てくる形でもあり、箇条書きでも使われる形です。一般的には不定詞の語尾が **-en** であることがほとんどです。

sprechen	gehen	essen	telefonieren
話す	行く	食べる	電話で話す

助動詞を使った文では本動詞が不定詞のまま使われます。

Ich kann sehr gut schwimmen.

私はとても上手に泳げます。

Willst du schon gehen?

君はもう行きたいのですか。

Du musst noch deine Hausaufgaben machen.

君はまだ宿題をしなければなりません。

移動の動詞の *gehen* や *fahren* と一緒に使うことも多いです。

Ich gehe gern spazieren.

私は散歩するのが好きです。

Fährst du heute einkaufen?

君は今日買い物をしに行きますか。

Ich will jetzt schlafen gehen.

私は今から寝たいです。

定動詞 (**finite Verb**) は文の述語になっている、人称変化を受けている動詞のことを指します。主語と動詞がセットと考えられ、主語に合わせて動詞を変化させます。最も使う動詞の活用は現在形の変化です。不定詞の語尾 **-en** を除き、現在人称変化語尾を付けます。

		kommen	arbeiten	fahren	sein	haben
単数	ich	komme	arbeite	fahre	bin	habe
	du	kommst	arbeitest	fährst	bist	hast
	er/sie/es	kommt	arbeitet	fährt	ist	hat
複数	wir	kommen	arbeiten	fahren	sind	haben
	ihr	kommt	arbeitet	fahrt	seid	habt
	sie	kommen	arbeiten	fahren	sind	haben
単複	Sie	kommen	arbeiten	fahren	sind	haben

Ich **komme** gleich.

私はすぐに行きます。

Du **arbeitest** hart.

君は勤勉に働いています。

Er **fährt** einkaufen.

彼は買い物をしに行きます。

Wir **sind** eine Familie.

私達は家族です。

Ihr **habt** Glück.

君たちは幸運を持っています。

Arbeiten sie noch?

彼らはまだ働いていますか。

Wann **kommen** Sie?

あなたはいつ頃来ますか。

1. 動詞の形態

動詞の形態には文の述語 (Prädikat) になるものと、行為または状態そのものを表示するにとどまるものの2つある。前者を定動詞といい、後者を不定詞という。不定詞は、一般には動詞の原形と呼ばれる。ドイツ語の不定詞は、kommen, lernen, lächelnのように、すべて -en もしくは -n の語尾 (Endung) をもっている。この語尾を除いた部分を語幹 (Stamm) という。

2. 動詞の変化

文の述語となる動詞の形態、すなわち定動詞は、次の関係を表すために、さまざまな語形を作る。これを、動詞の活用 (Konjugation) という。

a. 人称

人称 (Person) : 会話の参加者を分類する。

話し手は1人称、聞き手は2人称、その場にいらない人は3人称である。

b. 数

数 (Numerus) : 文の主語の数による分類である。

単数 (Singular) と複数 (Plural) である。

c. 時制

時制 (Tempus) : 行為または状態の起こる時を表すもので、現在 (Präsens)、現在完了 (Perfekt)、過去 (Imperfekt)、過去完了 (Plusquamperfekt)、未来 (Futur)、および未来完了 (Futur Perfekt) の6時制がある。

d. 法

法 (Modus) : 文の内容に対する話し手の態度を示す。

直説法 (Indikativ)、接続法 (Konjunktiv)、および命令法 (Imperativ)

がある。直説法は、文の表現する内容を事実として表し、接続法はこれを願望、要求、想像(非現実)として、そして命令法はこれを話し手の命令、禁止として表すものである。別に、条件法(Konditional)と呼ばれるものもあるが、これは接続法の1形式として見なすことができる。

c. 態

態(Genus Verbi)：能動(Aktiv)と受動(Passiv)がある。

前者は主語の表示する人または物が行為したり、存在したりすることを表し、後者はその人または物が他の行為を受けることを表す。

3. 不定詞(Infinitiv)

a. 形式

不定詞の種類：不定詞には、現在不定詞(Infinitiv Präsens)と完了不定詞(Infinitiv Perfekt)がある。

前者は、一般にただ不定詞と呼ばれる動詞の原形であり、後者は動詞の過去分詞に助動詞 **haben** もしくは **sein** を付したものである。

これらは、形式的には能動(Aktiv)であって、これに対して他動詞には原則として受動(Passiv)の不定詞もある。受動の現在不定詞は動詞の過去分詞に助動詞 **werden** を、受動の完了不定詞は過去分詞に **worden sein** を付して作られる。

また、それぞれの不定詞には、**zu** のない不定詞(Infinitiv ohne zu)と **zu** をもつ不定詞(Infinitiv mit zu)の2つの形態がある。前者には、さらに中性名詞化した名詞化不定詞(substantivierter Infinitiv)と呼ばれる形態もある。

1) zu のない不定詞

現在不定詞

能動
sehen

受動
gesehen werden

完了不定詞

能動
gesehen haben

受動
gesehen worden sein

2) zu をもつ不定詞

現在不定詞

能動
zu sehen

受動
gesehen zu werden

完了不定詞

能動
gesehen zu haben

受動
gesehen worden zu sein

3) 名詞化不定詞

das Essen, das Leben, das Inskinogehen (= das Ins-Kino-Gehen)

b. 用法

不定詞の主体：不定詞は文の述語とはならず、主語を持つことはないが、文中で用いられるとその文脈から不定詞の表示する行為や状態の主体は規定できる。

1) 不定詞の主体は多くの場合、その文の主語と同一である：

Hast **du** morgen Zeit, zu mir zu **kommen**?

君は、私のところに来てくれる時間が、明日ある？

2) 文の目的語が不定詞の主体であることもある：

Ich habe **ihn** gebeten, zu mir zu **kommen**.

彼に、私のところに来てくれるよう頼んだ。

3) 文中に不定詞の主体となる語が見えないこともある。これは一般的な表現であって、その主体は **man** (不定代名詞) であるか、文の関連からわかる特定の人物、事物である：

Den Feind lieben ist edel.

(=Dass **man** den Feind liebt, ist edel.)

敵を愛することは高貴なことだ。

Dich zum Bahnhof fahren, das ist notwendig.

(=Dass **ich** dich zum Bahnhof fahre, das ist notwendig.)

君を駅まで送ることが必須だ。

4) 特定の動詞と結びつき 4 格を伴う不定詞もある。この場合、この 4 格が不定詞の主体である。いわゆる、使役動詞や知覚動詞である。

Ich **sehe den Lehrer** Klavier spielen.

私は、その先生がピアノを弾いているのが見える。

Ich **lasse ihn** ruhig weinen. 私は彼をただ泣かせておく。

c. 不定詞が表す時

不定詞そのものに時制はないが、文中においては、その時制に左右されて一定の時を表す。

- 1) 現在不定詞は、それが用いられている文の時制が表す時において、それが表示する行為、状態、事象が行われているか(同時)、あるいはまさに起ころうとしているか、という、未完了状態を表す：

Ich hörte ihn Geige **spielen**.

私は、彼がバイオリンを弾いているのが聞こえる。

- 2) 完了不定詞は、それらが用いられている文の時制が表す時において、それが表示する行為、状態、事象がすでに完了していることを表す：

Er ist stolz, die Prüfung **bestanden zu haben**.

彼は、その試験に合格したことが誇らしい。

d. 代替不定詞

話法の助動詞が不定詞を伴う場合、完了時制の過去分詞として不定詞形を用いる。また、話法の助動詞に準ずる動詞の場合にも同様のことがある。

Das hättest du früher sagen **müssen**.

それを、君はもっと早くに言わなくちゃいけなかったのに。

Ich habe mir die Haare schneiden **lassen**. 私は散髪してもらった。

e. 述補語

- 1) zu 不定詞は、文の述語となっている **scheinen** と結んで、その意味を補う。

Du **scheinst mich nicht verstanden zu haben**.

君は私の言うことが理解できていないように見えるね。

- 2) 他動詞の zu 不定詞は、sein, bleiben, stehen などの補語となって、

IV.

文編

文は、動詞を軸に組みます。不定詞句から定動詞を動かし、主文にしたり副文にしたりします。IV章では、単文レベルで時制の違いを表したり、受動文の作り方を見たりします。また、複合文として主文と副文を組み合わせたりします。

伝えたいことによって使われる文法の法 (**Modus**) が異なります。法は3つ (直説法, 命令法, 接続法) あり, それぞれ動詞の形が違います。一般的に一番よく使う法は直説法 (**Indikativ**) と命令法 (**Imperativ**) です。直説法は, 一般的な平叙文や疑問文の現在形や過去形の文の法のことです。命令法は命令だけではなく, 親しい間柄の指示文などでも使われます。初級では使うことが少ないのですが, 接続法 (**Konjunktiv**) は仮定を表す法になります。

直説法には現在形はもちろんですが, 現在完了形や未来形の意味・機能も含まれています。

Ich esse jetzt ein Käsebrötchen.

私は今, チーズのせのパンを食べています。

Ich habe gestern zwei Käsebrötchen gegessen.

私は昨日, チーズのせのパンを2つ食べました。

Ich werde morgen kein Käsebrötchen essen.

私は明日, チーズのせのパンは食べません。

Isst du wieder ein Käsebrötchen?

君はまたチーズのせのパンを食べているのですか。

命令法で使われる動詞の命令形は, 2人称単数は2人称単数 (du) の人称変化をさせ, 語尾の -st を除いて作りますが, 不規則変化のウムラウトは引き継ぎません。2人称複数 は 2人称複数 (ihr) の

形のままで使います。どちらも、直接相手に呼びかける言葉なので、人称代名詞は使いません。命令形で人称代名詞を使うのは敬称(Sie)の場合のみで、敬称の命令形は「語幹 + en」です。

	2人称単数	2人称単数 (命)	2人称複数 (命)	敬称(命)
sprechen	du sprich st	Sprich!	Sprecht!	Sprechen Sie.
trinken	du trink st	Trink!	Trinkt!	Trinken Sie.
gehen	du geh st	Geh!	Geht!	Gehen Sie.
hören	du hör st	Hör!	Hört!	Hören Sie.
schlafen	du schlä fst	Schlaf!	Schlaft!	Schlafen Sie.
sein	du bist	Sei!	Seid!	Seien Sie.

Lesen Sie bitte.

読んでください。

Hört bitte zu!

話を聞いて！

Schlaf jetzt!

今すぐ寝ろ！

Geh doch mal zum Arzt!

医者のあるところに行ってみたら？

Nehmen Sie bitte hier Platz.

こちらにお座りください。

Sei nicht so laut!

そんなにうるさくするな！

Seien Sie bitte leise.

静かにしてください。

Sie に対する命令文は厳密には接続法を用いていますので、文末が「!」になりません。



1. 法 (Modus)

文の話し手はそこで述べている内容を事実として表現するか、要求としてか、願望としてか、伝聞か、想像か、非現実か、など、何らかの態度をとるものである。その態度に合わせて文のモード（法）を変える必要がある。自分はそのことを事実としては信じていないのに、あたかも自分の言説であるように受け止められてしまうと遺憾であったり、その逆があったりするからである。この法は、動詞の形態をそれぞれのモードに対応させて表すことになっている。直説法、命令法、接続法の3つのモードがある。

2. 直説法 (Indikativ)

直説法は最も一般的なモードである。他のモードを使う理由がない限り、平叙文も疑問文もこのモードで、話者が情報を伝えたり、あるいは話者が聞き手から情報を得たりする。

a. 直説法の形態

現在形、過去形、完了形等、本書で説明している動詞の形は、特に断りのないものは直説法である。

b. 機能

直説法は話し手はその文の内容を事実と見なしていることを表す。ただし、それは真理とはかぎらない。話し手が事実であると信じていること、文が表す命題が事実であろうということを話し手が保証しているが、その話し手の思想や判断には真理上の誤りがあることはありうる。また、故意に虚構を断定的に述べることもある。

Die Erde dreht sich um die Sonne. 地球は太陽の周囲をまわる。

Die Sonne dreht sich um die Erde. 太陽は地球の周囲をまわる。

上の文がいわゆる「地動説」、下の文が「天動説」の言説であるが、天動説が信じられていた時代、あるいは天動説を信じている人は下の文を「自分はそれが事実だと思っている」という態度で表明するのである。

c. 要求・願望

直説法は、助動詞の力を借りたり（借りないこともある）、話法に関わる副詞群（たとえば、**hoffentlich**「願わくば」、**vermutlich**「おそらくは」、**wohl**「きっと」など）を添えることで、他の法（命令法、接続法）が表す要求、願望、想像などを述べることも少なくない。

Hoffentlich geht es ihm wieder gut.

願わくば彼がまた元気になるといいのだが。

Wenn ich mehr Geld habe, **werde** ich verreisen.

私にもっとお金があれば、旅に出るだろうよ。（仮定）

Sie **dürfen** nicht zu viel Zucker zu sich nehmen.

砂糖を摂りすぎではありません。（命令）

Alle versammeln sich morgen um 9 Uhr vor dem Bahnhof!

全員、明日9時に駅前集合のこと！（要求）

3. 命令法 (Imperativ)

命令法は、話し手が相手に要求・依頼することを述べ、その実行を求めるモードである。単なる希求ではなく、実行を求めるところが重要である。人称は2人称に限られる。2人称限定の表現であるため、主語は不要となる。時制は原則として現在形しかない（敬称 **Sie** の命令文については後述）。

a. 命令法の形態

1) 命令法は不定詞の語幹に次の語尾を付して作る。

...e **Bleibe** gesund! （君）元気で！

...t **Bleibt** gesund! （君たち）元気で！

2) 直説法現在 2 人称単数および 3 人称単数の主語に対し、幹母音 e が i

または **ie** になるタイプの動詞（不規則動詞）は、命令法でも単数（**du** に対して）では同じように幹母音を転じ、かつ、語尾 **...e** は省略する。このタイプの動詞でも複数形（**ihr** に対して）は **1** の通りである。

Sieh mal! ちょっと見て！

Gib mir bitte noch ein bisschen Zeit!

もう少しだけ時間をちょうだい！

Nimm deinen Regenschirm mit! 雨傘を持って行って！

なお、werden は直説法現在では **du wirst, er wird** と **e → i** になるタイプの不規則動詞であるが、例外的に命令法での母音交替はなく、（**du** に対して）**werde** となる。

Werde bitte schnell wieder gesund! 早くまたよくなって！

- 3) 単数の **...e** は省略されることが多い。ただし、**-eln, -ern, -nen** に終わる動詞においては、これを省略せず、語幹の **e** を省略することがある。

Komm[e] bitte gut nach Hause! 気をつけて家に帰って！

Denk[e] doch daran! そのことを考えてみて！

Hand[e]le (<handeln) bitte den Grundsätzen gemäß!

原則に則って行動せよ！

b. 命令法の時制と態

命令法は、その性質上、過去のことについては表現できず、これから先の行為を求めるものである。よって時制は現在であるが、ときに現在完了形を用いることもある（完結することに対する態度を求める）。また、態は能動態が一般的であるが、一部、受動態が用いられることもある。

Habt Euch vorher wohl präpariert. (Goethe)

事前にしっかり準備をしておけ！

Werde von deiner Habgier aufgeessen!

お前の強欲に食い尽くされよ！

Sei mir begrüßt! ようこそ！

c. 代替形（補充形）

命令法は2人称親称の単数・複数にしかないので、2人称敬称 **Sie** に対する命令文、あるいは1・3人称に対する命令・要求は別の方法を用いないと表現できない。

1) 接続法第1式（→ 245ページ）を用いて

Kommen Sie bitte pünktlich.

時間どおりにお越しください。（2人称敬称）

Seien Sie mutig. 勇気を出して！（2人称敬称）

Es regne! 雨よ降れ！（3人称単数）

Wollen wir langsam gehen! そろそろ行きましょう！（1人称複数）

2) **sollen, müssen, mögen** の直説法で

Er **mag** hier bleiben. 彼はここに留まるがいい。

Sie **muss** zum Arzt! 彼女は医者にかからないといけない。

Er sagte, Sie **sollen** sofort nach Hause.

あなたはすぐに帰宅するようにと彼が言っていた。

なお、話法の助動詞は命令法を持たない。ただし、**wollen** のみ稀に命令形で表されることはある（**Wolle unsere Tat verzeihen!**「私たちの行いをお許してください」）。

d. 主語を添える場合

命令法は主語を欠く（上述）が、特に主語を強調する必要があるときにはこれを加える。

Sprich **du** mit ihm! （他でもない）君が、彼と話してみてくれ！

Sorgt **ihr** für euch! 君たちは（他でもない）自分のことを構え！

e. 2人称

未来形の2人称は強い命令や要求を表すことがある。

Du wirst ins Bett gehen! 寝にいきなさい！

Du wirst den Apfel schießen von dem Kopf des Knaben. (Schiller)

その少年の頭からりんごを射よ！

V.

その他

V章では、IV章までで扱えなかったものを扱います。たとえば、形容詞(II章)と動詞(III章)の性質を分有する分詞や、動詞を名詞的文体にするための機能動詞、あるいは数詞や句読法などを扱います。

句読法

ほかのラテン文字を使う言語の書き方と同様に、ドイツ語は語と語の区切りのために間を空け、句読法 (**Interpunktion**) によって文や句を繋いだり分けたりします。

Ich heiße Max. Wie heißt du?

私はマックスという名前です。君の名前は何ですか。

Ich komme aus Deutschland, aus Dresden.

私はドイツのドレスデンから来ています。

終止符 (**Punkt**) は文の最後に置かれ、文が終わったことを示し、文と文を分けます。疑問符 (**Fragezeichen**) は文の最後に置かれ、文が疑問文であることを示します。コンマ (**Komma**) は文や句を繋いだり、並列する項目を繋いだりします。

Ja, er wohnt auch in München.

はい、彼もミュンヘンに住んでいます。

Meine Hobbys sind Tanzen, Singen, Lesen und Fotografieren.

私の趣味は踊ることと歌うことと読むことと写真を撮ることです。

感嘆符 (**Ausrufezeichen**) は感情を表し、文の強調に使われます。

Wie geht es dir? — Super!

君は調子はどうですか。 — 絶好調です！

Mein Lieblingsessen ist Schokoladenkuchen!

私の一番好きな食べ物チョコレートケーキです！

話される言葉では、文が終わるか、まだ続くか、などはイントネーション（抑揚）や「間」の置き方、身振り手振りなど、聴覚に加えて視覚的な情報で示せるが、文字で書かれた文章では、視覚的な方法のみが講じられる必要がある。この文字で示す「間」の置き方は、句読法（Interpunktion）という。そのために用いられるのが符号（Interpunktionszeichen）である。

1. プンクト (Punkt)

文の完結を示す終止符。

文の完結を表すほか、文全体が長くなった場合には、一度文を切るためにプンクトを打つことがある。

いずれにしても、プンクトが来ると文が終わり、次の文の先頭は大文字で書く。

また表題、あるいは省略、序数などを示すためにも用いられる。

Über uns.	私たちについて
usw.	und so weiter の略
am 11.10.2000	2000年10月11日に

2. コンマ (Komma)

a. 文成分の並列

接続詞 und, oder, sowohl ... als auch ～, weder ... noch ～などで結合されない文成分を並列する場合に用いる。

Mein Zimmer ist klein, aber gemütlich.

私の部屋は小さいが居心地がいい。

Er ist immer höflich, pünktlich, freundlich und fleißig.

彼はいつも丁寧に、時間も守るし、親切で、勤勉だ。

b. 意味の区切り

und, oder, sowohl ... als auch ～, weder ... noch ～などで結合されている文成分であっても、意味をはっきりさせたいときにはコンマを打ってもよい。

Die Steuer hat sich erhöht(,) und der Gewinn ist gesunken.

税が高くなり、利益が下がった。

c. 文と文の並列

完全な文と文の並列の場合には、接続詞の有無に関わらず、間にコンマを打つ。

Er singt, sie tanzt. 彼は歌う、彼女は踊る。

Zwar verstehe ich nur langsam, doch möchte ich alles wissen.

たしかに私は理解が遅いが、それでもすべてを知りたい。

d. 主文と副文の区切り

主文と副文とはコンマで区切られる。

副文が中間文なら、その前後にコンマを打つ。副文が短縮されたもの(分詞構文なども)にあっても同様である。ただし、zu 不定詞句はコンマがないと解釈が難しい場合を除き、省略できる。

Wir wohnten in Wien, als ich Kind war.

私の子供だったとき、私たちはウィーンに住んでいた。

Er grüßte mich, den Hut unter dem Arm.

彼は帽子を小脇にかかえて、私に挨拶をした。

Wir essen(,) um zu leben. 私たちは生きるために食べる。

e. 挿入文・同格

挿入文や同格の前後に用いられる。

„Das“, sagte er, „ist mir eine große Freude!“

それがー彼は言ったー私には大きな喜びです。

Wir, mein Chef und ich, hatten einen Streit.

私たち、上司と私は、言い争いをした。

田中 雅敏 (たなか・まさとし)

東洋大学教授。広島大学大学院博士課程修了。博士(学術)。専門はドイツ言語学・ドイツ語教授法。ポツダム大学(ドイツ)・ザルツブルク大学(オーストリア)などで在外研究。著書に『1か月で復習するドイツ語基本の文法』『ドイツ語積み増し 360語』(共に語研),『中級学習者のためのドイツ語質問箱 100の疑問』(白水社)など。NHKラジオ講座「まいにちドイツ語」(初級編・応用編)担当講師。

パウアー・ラーズ

Lars Bauer. 東洋大学専任講師。ドイツ・テューリンゲン州出身。ライブツィヒ大学大学院修了。Master of Arts (M.A.)。専門はドイツ語教育・MALL。和独独和翻訳者としても活躍。NHKラジオ講座「まいにちドイツ語」(初級編)ラジオ出演・NHKテレビ「旅するためのドイツ語」にて声の出演。

© Masatoshi Tanaka; Lars Bauer, 2024. Printed in Japan

初級者から上級者まで必携 ドイツ語文法大全

2024年12月31日 初版第1刷発行

著者 田中 雅敏 / パウアー・ラーズ
制作 ツディブックス株式会社
発行者 田中 稔
発行所 株式会社 語研
〒101-0064
東京都千代田区神田猿樂町 2-7-17
電話 03-3291-3986
ファクス 03-3291-6749
組版 ツディブックス株式会社
印刷・製本 シナノ書籍印刷株式会社

ISBN978-4-87615-442-5 C0084

書名 ショキウウシャカラジョウキウウシャマデヒツケイ
ドイツゴブンボウタイゼン

著者 タナカ マサトシ / パウアー・ラーズ
著者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価: 本体 3,600円 + 税 (10%) [税込定価 3,960円]
乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。

株式会社 語研



語研ホームページ <https://www.goken-net.co.jp>

本書の感想は
スマホから ↓





初級者から上級者まで必携 ドイツ語文法大全

ためし読みはここまでです。

Webページへ

